

病院を つくる

東金市と九十九里町が運営を目指す地域医療センター。県が財政支援を含む計画試案を示したことから、医療崩壊の危機に直面する住民の期待は大きい。一方、県試案の実現可能性を巡っては、疑問や異論を唱える関係者が少なくない。検討すべき課題を探った。

「50人の医師をどうやって集めるのか」

「県と千葉大とは信頼関係がある。その信頼に基づいて医師確保を具体化していきたい」

10月28日、東金市議会の全員協議会。市議20人と県、市の幹部職員らが出席し、センター計画に関する県試案への質疑が続く中、県健康福祉政策課の野村隆司課長は、千葉大から医師が派遣される見通しがあると強調した。

県が医師の供給源として期待する千葉大は、地域医療の要となる県内の自治体病院に、多数の医師を派遣してきた。ところが、2004年度に新臨床研修制度が始まり、研修内容が充実した大都市の民間病院などに新

卒医師が集中。医学生希望病院と受け入れ病院とを調整するマッチングの結果、千葉大は08年度、95人の募集に対し、51人しか内定できない事態となった。千葉大関係者によると、大学関連の県内の基幹病院だけでなく、内科医が約1000人足りず、外科医も似たような状況だという。別の関係者も「千葉大病院も医師の確保が難しくなっており、関連病院に派遣できる医師数は減っている。センターだけ優先するのは無理だ」と明かす。

東金市の志賀直温市長は今年12日の臨時市議会で、「県立東

金病院にドクターをより付け、新しいセンターに移っていくことが必要だ」と述べた。東金病院はセンター開設時に廃止の予定だが、それまでの間は医師増員を中心に、同病院のテコ入れを図るよう県に求めたものだ。東金病院は現在、常勤医8人、診療科も内科、小児科など6科のみだ。許可病床数は191床

県もようやく12月から、千葉大を通じて3人の指導医を同病

院に派遣する。地域医療の充実を図るため、県が千葉大に新設した寄付講座を活用した初のケースだ。県は09年度に後期研修医の派遣も検討しており、「千葉大と十分協議していけば、4、5年後の開設時に50人という数字は、決して不可能ではない」（野村課長）という。

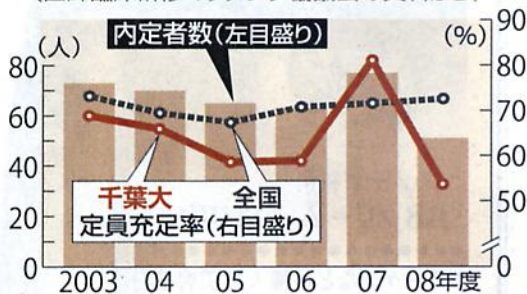
こと、若い医師が来なくなる教育環境が整っていることだ

こう指摘するのは、病院経営に詳しい伊関友伸・城西大准教授だ。センター予定地に近接する茂原市の公立長生病院は07年4月、大黒柱の内科で常勤医が1人となり、夜間診療や一般外来の受け入れ制限に追い込まれた。しかし、千葉大出身者で占めてきた院長に自治医大出身者を迎え、幅広く医師を集めようと努力した結果、内科の常勤医は現在8人にまで回復した。高中洋事務部長は「受け入れ制限は、本当につらかった。何としても病院を立て直そうと、医者集めに全国を回り、『あなたの方がぜひ必要です』と必死にお願した。『この地域から病院をなくすわけにはいかない』という思いが、相手に伝わったんだと思う」と振り返る。

医師確保の成否は、病院経営を大きく左右する。「医師1人で年間1億円稼ぐ」と言われるように、医師が集まらなければ減収となり、今回のセンターの場合、東金市と九十九里町の財政を圧迫する。こうしたリスクがあることも、両市町は住民に説明する必要がある。センターを支える事務スタッフの整備も含め、県や千葉大に頼ってばかりはいられない。

医師確保

◆千葉大病院の研修医内定者数の推移
(医師臨床研修マッチング協議会の資料から)



「千葉大頼み」脱却必要

■ 県試案の概要

地域医療センターの設置を目指す東金市と九十九里町の要請を受け、県がセンター長候補の平沢博之・千葉大名誉教授の私案を基に作成。県は両市町に85億6000万円を財政支援

設置場所	東金市丘山台の工業団地内
病床数	314床 (うち新型救命救急センター14床)
診療科	17 (内科、外科、小児科、産婦人科など)
職員数	350人 (医師50人、看護師236人など)
機能・役割	山武長生夷隅保健医療圏の救急医療の拠点。がん、脳卒中、急性心筋こうそくなどの急性期医療の拠点。千葉大病院と連携した臨床研修指定病院

医師確保の成否は、病院経営を大きく左右する。「医師1人で年間1億円稼ぐ」と言われるように、医師が集まらなければ減収となり、今回のセンターの場合、東金市と九十九里町の財政を圧迫する。こうしたリスクがあることも、両市町は住民に説明する必要がある。センターを支える事務スタッフの整備も含め、県や千葉大に頼ってばかりはいられない。